

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

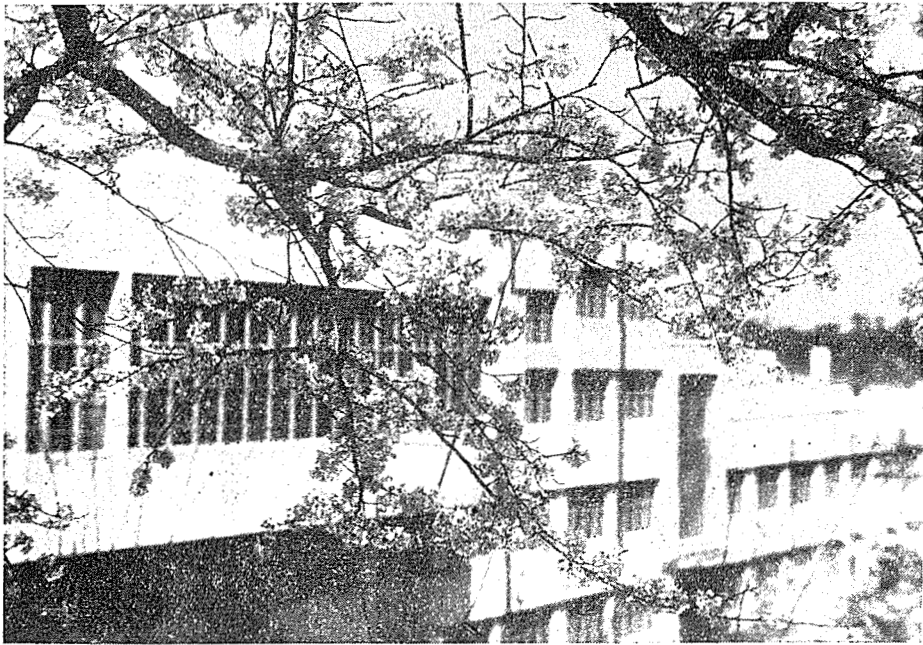
Osaka, April 15th, 1953. No. 258

關西大學學報

第 2 5 8 号

昭和 28 年 4 月

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
復刊第二八号(通卷第二五八号)
昭和二十八年四月十五日発行(毎月一回十五日発行)



學園の櫻 (本學外苑より益商學會をのぞむ)

關西大學學報局

新しき友に期待する

さき誇る千里山の桜と共に、われわれは新しい多くの友を迎えた。われ／＼はこの新しい友に心から入学のお慶びを申し上げますと共に新しく入学された諸君に、限り無い親しみと、言い知れぬ希望を以て、敢えて諸君を友と呼び大なる将来を期待するものである。敗戦という歴史的な大転機によつて、わが國のあらゆるものが変化した。むしろ想像以上に強力な外的制約は変革を余儀なくした。その中であつて学制の改革は著しいものの一つであつた。幾多の困難を含んだ特に大きな問題として、所謂六・三・三制による教育制度が実施された。新しく入学された諸君は、この新制度の課程を経た最初の大学入学者である。いわば諸君こそ、最も新しい教育を身に付けた、真の民主的教育によつて育てられた最初の学生なのである。諸君の爾後に於ける行為は、日本教育界はおるか日本全国民否世界全人類の注視する所である。新学制を云々する識者も少くはない。しかし、それに対する明確なる解答は、それらの人々によつて与えられるものではなく諸君の行動のすべてが、与えるのである。入学後の諸君に幸多かれと祈るわれ／＼にはこうしたものに対して尙この上に良かれと期待するものである。

又、諸君に期待する第二のものは、わが関西大学の

将来の発展への担い手してである。関西大学拡充五年計画は茲に三年目を迎え、着々とその歩を進めている。諸君は千里山の高台に聳える多くの新建築物を既に知つておられるであらう。それと共に、未だ継続されている諸工事の模様によつて五ヶ年計画完成の暁に於けるわが学園の威容を胸に描いて居られる事であらう。この新学舎の建設と共に、この春より大学院博士課程が設置され、名実共に最高学府の權威に益々光を加ふるに至つた。諸君は本学にあつても完成された新学制を学ぶ最初の学生なのである。輝やかしい七十年の歴史を持つ関西大学は、諸君の手によつて更に新しい歴史の一頁を加え、伝統の確立がなされるのである。優れた教授の下、美しい風光と完備された学舎に学び得る諸君は幸福である。われわれは優秀な諸君が本学にあつて学ばんとする堅い決意とその抱負に期待を寄せざるものである。

大学は最高の教養を身につけた文化人を育成すると共に、真理探究の「場」である。知識の増加のみで満足すべきではない。まして、爾後四ヶ年の課程を卒業し、一片の卒業証書を片手に、欺瞞と虚偽に満ちた社会の忠実なビジネスマンを作るものではない。諸君の前途は洋々たるものがある。それだけに幾多の苦難もその道に待つている。諸君は益々健康で総ての悪を断乎排して初志を貫徹されんことを切望するものである。

第二五八號 目次

卷頭言	(2)
進展躍動の関大観長柄金吾	(3)
博士課程の設置に 際して森川太郎	(4)
関西大学大学院の全貌	(5)
学内報	(8)
校友	(10)
考え物新題 其の三一鷄学人	(12)
学生	(14)
編集後記	(15)

進展躍動の關大觀

長柄金吾

曾て二年前に母校の發展策と校友及び社会との連繫の緊密且つ擴大強化を叫んで学報誌の原稿としてお送りした紙面の關係と学報の性格から割愛されたことがあつた。その後大学各学部には研究論集が再刊又は新刊されることになつて学問上の論述はこの研究論集に移稿され学報が大学と学生、大学と校友及びその一連の社会、学生と社会との各相互運繋誌に性格を變じ所謂 P・R 機関誌の感を受くるようになったことは結果から見て喜ばしい事である。母校が七十年に垂々とする古い歴史と伝統を持ち関大社会を形成する一大校友陣は老若普ねく各職域に浸透している今日、校友以外に関大に深い干係を持つ関大陣によつて関大の経営と関大の教學面が運営充實されることに何の不思議もない、即ち植民の大学の存在から離脱して自主独立の関大が形成され且つそれが望ましいからである。家族制度は法律上日本の社会から放棄されたが家族制度的精神は払拭されないであらう。それは因縁社会と云うか縁故社会と云うか、或る繋りを持つ人々がその繋り

中心に注ぐ愛の輪転社会である以上好まじきことであつて忌むべきことではなからう。学校法人に転進してからの関大は大きく明朗闊達のうち面に面目を一新した。それは自ら伸びる基礎が確立され素地ができていたからであることを忘却できない。それにしても関大の冬籠りの時機は余りにも永かつた。北歐の氣候の如く冬と夏の関大であつて春秋の恵みを忘れたかの関大であつた。而し最近はこの姿が變つて清新潑潑な芽生を感じ出した。固より春夏秋冬の自然界の如く伸び行く今後の関大には落雷や豪雨や梅雨や台風の脅威も受けるのであらうがそれを乗り切る事も対策も充分と思ふ。こうした前提に於いて私は最近の関大の在り方を喜ぶ一人である。

先ず最近の現象としては新制大学の組織上の完結編として博士課程の大学院が法、文、経に夫れ々設置認可を見た事を第一に挙げねばならない。吾々の記憶に残っている或る教授が学位論文を提出して学位を請求したところ関大にはこれを審査する専任教授が居ら

のないとの理由で拒否され他の大学に於いて堂々と博士の称号を授与された事実などから推論するとき最近十年間に於いて関大より岩崎、森川、西本、矢口、三谷各教授が次々と博士になり又博士以上の実力を持つ教授が多数結集して博士課程の法文経の三部門の教授に当たられる事は欣快事である、この雄渾自負の基盤に於いて各教授自らの勉学素質の向上に邁進されると共に優秀教授の受入れと後進育成に努力されるとき今後の関大の質的感觀が期待されるに充分である、次に過般決定発表された森川、矢口、堀、中谷四教授の海外研究出張の件は永らく中絶していた留学研究制度の復活ではあるが、我国私学界に大きな刺激を与えたようである。このことは修士課程特に博士課程を持つ関大としては全く当然の措置で如何に国内的に有位な学者と云えども世界の現実を五感に觸れずして世界を語る条件を具備しているとは感ぜられない。この意味から近く出發される四教授は海外各地に於いて大いに聴き大いに談つて博士課程大学教授の實力を發揮し練磨してその土産を関大に捧げて頂きたい。斯くて後進も亦統々と跡を追うように努力され希望に富む学園生活を営んで貰いたい。第三に大学の経営が校友枢軸になつた事である、学校法人の密附行為によつて八十数名の評議員が選ばれその大半が校友にしてその他も皆大学に最も深い教職の任にあるものばかりである、これ等によつて六人の理事三人の監事が選出され又理事会推薦の理事も亦大学に多大の貢献

ある人々である。この人々が校友の最長老白川理事長を中心によく衆議を採用しつゝよき合議体として堅実な民主運営の実を發揮し着々懸案事項の解決実現を見つゝあることは明朗且つ欣快事である。殊に予算決算以外は諮問機関である評議員会も中務議長を中心として展開する論議は学校議會を思わしめ、更に校友代表である評議員の要望を受け入れて今回理事會が制定した建設委員會、學事委員會、給与厚生委員會、就職幹

旋委員會、体育振興委員會、財務委員會、俱樂部設置委員會、七十週年行事計畫委員會の如きは全國各大学に率先実施した画期的な組織としてその活動と成果は大いに期待されてよいと思う。真面目な母校愛の結果を以つてする以上益々公明な伸長を続け暗い陰がなくなつた次第である。最近の如く優秀學生が関大入学を目標して殺到する様相は実に戦慄を覚ゆる程で、これ等の入學者が真摯に大学教育と大学生活を樂しみ且つ

博士課程の設置に際して

森 川 太 郎

今般新學制下に於ける大学院制度の整備に當つて、本大学に於ても大学院の法、文、經の各研究科にそれぞれ博士課程が設置せられるに至つたことは洵に喜ばしい。これで本學も新制度の下に於ける大学としての威容を、制度的に一応完備したわけである。博士課程は獨創的研究に依つて學術の進歩に貢獻し、専門分野の研究を指導する能力を有する人物を育成する課程であるから、大学としての課程を有つことの意義は大きく、從

つて又その責任も重いと云わなければならぬ。知られる通り諸大學の如何なる専門分科について博士課程が成立するや否やは、大學設置審議會が各大学の設備、教授陣容等について嚴重な審査に當つたのであつて、云うまでもなく本學の博士課程もこの審議會の審査をパスして成立を認められたものである。尤も大學設置審議會の審査、特に法學部並びに經濟學部門に於ける専門分科委員會の審査について、若干の問題が生じたこと

は過般新聞紙が伝えた通りであるしかし多少の問題はあつたにせよ分科委員會の委員諸氏が權威ある博士課程の成立を期せられた誠意と努力は、充分にこれを認めなければならぬ。従つて本學についても、前記諸學科に博士課程の成立が認められるまでには、學長始め関係者の少からぬ努力があつたのであり、その苦心談は後日語られる機会もあるであらう。唯この機会に切に思われることは、吾々は單に博士課程の設置せられたことだけを以て満足すべきではなく、本學の博士課程を權威あらしめるために、今後一層設備並びに教授陣容の充実を図り、本學の學問的水準の向上に努めなければならぬことである。(教授、理事、編輯)

大學當局、教授會、校友の三者が三位一体の実を就職場裡に求人、求職の輪環となつて活動するとき現在の大學の悩みも亦解消するであらう。特に留意することは來年三月卒業する最上級學生は來年のことと思わず四月新學期から就職体制を敷く必要があり委員會と充分なる懇談を遂げ或る目標と基準を掲げて一年中の活動とする必要のあること並びに不斷に質實剛健の思想を涵養して就職落伍者とならないよう心懸ければなるまい、斯くして大學自体は堂々三億の而も健全財政を以つて教學面の充実を図ると共に教職員の安定生活に充分なる待遇の改善に努め一万余千の優良なる學生生徒を擁しこれを收容し支持するに不足なき設備の拡充を完うして名実共に日本私學と雄となる日も近きにある。天大學舎の補修成つて二部學生を完全收容し商工都大阪に適はしい勤勞學徒の培養育成と廣大雄壯なる千里山學園には法文學舎、大學本館、高等學校、東洋文化研究所などが完成する日も近づきつゝあると思ふとき吾々はその壯觀の夢に心躍るものがある。

最後に多年宿望の校友會名簿が刊行されて広く校友の消息を知る機会を得、これに依拠して更に至校友の消息が明白となり、一年待たずして増補名簿の刊行となり校友と母校乃至校友相互の交流は愈々瀾縈の度を加え學園の内外に春風長閑かな陽炎が立ちこめるであらう、伸び行く関大を祝福しつゝ擲筆する。

(校友、本學評議員、計理士)

説解

関西大學大學院の全貌

本春四月より新学制による大学院が博士課程の設置認可に伴つて、愈々修士課程と共に最高学府として発足するに至つた。勿論全国の国公私立各大学に於いて夫々大学院の特色があり、又本学にあつてもその独自の教育方針の下に決定されたが、この組織を以て満足するものでもない。今年の博士課程の設置認可は法学研究科では公法学専攻、文学研究科にあつては国文学及び哲学の各専攻、経済学研究科では金融経済・経済史専攻のみに止まつたが、近き将来に於いては、更に私法学専攻、或は英文学専攻、史学専攻、又経済研究科にあつては経済学専攻・商学専攻等の増設が当然要求され、実現を見なければならぬものである。しかしそれには現在以上に相当大きな教授陣容が必要とするのであり、教育施設の完備、講義システムの整備等残された問題は大きい。こうした問題が必然的に大学拡充計画とも相俟て始めて成果を収め得るのであり、博士課程の設置審査という問題を回つて各学界でも華かに展げられた論争の中に、従来その比を見なかつた厳重な審査を突破して獲得したこのコースの将来は大きな期待を呼ぶものである。それはとにかく四月より開講される博士課程を含めて、本学大学院課程を紹介しよう。

一、入學資格

本学に於ける大学院課程は修士課程と博士課程が上下一本に連関して居り、博士課程への進学は修士であるか、修士課程に於いて必要単位を取得した者に限るとされているのは、特色である。他の大学に於いては、博士課程と修士課程が夫々独立したコースを持つてゐるものであるが、本学に於いてはその例は当てはまらない。修士課程への進学は新制大学学部卒業者又はそれと同等以上の学力があると認められたものとなつて居り、この中には当然旧制大学の卒業者は入学資格があると見做されている。

二、博士と修士

新学制によつて従来の博士、学士等の概念がすっかり変つたことは周知の通りであるが、修士という学位が設けられて余計にわからなくなつた。学制上から云

えば、修士は大学院の修士課程を経たもの、博士は博士課程を経たものに与えられる学位であるが、茲では博士位を受ける為の本学に於けるコースを説明する。修士課程への進学は前記の通りであるが、博士課程への進学には、修士課程で三十単位以上の単位の取得を必要とする。修士記を受ける為には必要単位を取得して(三十単位以上)を論文審査にパスしなければならないが、博士課程への進学には必ずしも修士記は必要ない。本学の大学院にあつての一番大きな悩みは何と云つても博士課程の法学研究科では公法学のみ、文学研究科では、国文並びに哲学のみしか認可されていないという事である。これは早急に改善され修士・博士一貫した課程を得る事が特に望まれるものである。例えば、法学研究科の修士課程で私法専攻者は、博士課程ではその科目が設置せられていないが故に本学に於ける一貫した博士課程へは進学出来ない事になる。しかし、この事も近い将来にはその道が開かれるものと確信している。

三、大学院に於ける學科目

大学院に於ける履習學科目は次の通りである。

法学研究科

博士課程

公法學專攻

第一類(必修科目)

憲法学特殊講義	演	八	四	教授	中谷敬寿
行政法学	講	八	四	教授	渡辺宗太郎
国法学	講	八	四	教授	渡辺宗太郎
國際法学	講	八	四	教授	川上敬逸
刑法学	演	八	四	教授	植田重正

第二類(撰択科目)

法理学基本問題	講	四	教授	恒藤恭
世界法史学	講	四	教授	田中周友
刑事法特殊講義	講	四	教授	滝川幸辰

政治学特殊講義
政治史特殊講義

講 講
四 四
教 教
授 授
池 岩
田 崎
一 一
榮 榮

公法專攻(甲類)
必修科目

憲法學研究 講 四 教授 中谷 敬 壽
行政法學研究 講 四 教授 渡辺 宗 太 郎
刑法學研究 講 四 員外教授 瀧 川 重 幸 辰
國際法學研究(一) 演 講 四 教授 川 上 敬 逸
政治學研究 演 講 四 教授 岩 崎 卯 一
政治史研究 演 講 四 教授 池 田 榮

私法專攻(乙類)
必修科目

民法學研究(一) 演 講 四 教授 福 島 四 郎
民法學研究(二) 演 講 四 教授 木 村 健 助
民法學研究(三) 演 講 四 教授 明 石 三 郎
商法學研究 演 講 四 教授 西 木 寬 一

丙類
撰択科目

國際法學研究(二) 講 四 員外教授 恒 藤 恭
法制史研究 講 四 員外教授 猪 熊 兼 繁
英米法研究 講 四 員外教授 大 阪 谷 公 雄

博士課程
文學研究科

國文學專攻

第一類(必修科目)

上古及中古文學(一)

演 講 四 教授 沢 瀉 久 孝

同(二)

演 講 四 教授 島 田 退 藏

近古及近世文學(一)

演 講 四 教授 飯 田 正 一

同(二)

演 講 四 教授 金 子 又 兵 衛

第二類(撰択科目)

國語學特殊研究

講 四 講師 池 上 禎 造

國文學(一)

講 四 員外教授 小 島 吉 雄

同(二)

講 四 講師 山 脇 盛 孝

支那文學(一)

講 四 教授 高 橋 盛 孝

同(二)

講 四 教授 高 橋 盛 孝

哲學專攻
第一類(必修科目)

哲學根本問題

演 講 四 教授 岡 野 留 次 郎

哲學特殊(一)

演 講 四 教授 大 小 島 真 二

同(二)

演 講 四 教授 田 中 熙

第二類(撰択科目)

西洋古代哲學原典演習

講 四 講師 田 中 美 知 太 郎

西洋中世

講 四 講師 服 部 英 次 郎

西洋近世

講 四 講師 樋 元 和 一

社會學特殊講義

講 四 教授 岩 崎 卯 一

支那哲學

講 四 教授 石 浜 純 太 郎

修士課程
甲類(必修科目)

英文學專攻

英語學及英米文學研究

演 講 八 教授 堀 正 人
教授 山 田 松 太 郎
講師 山 本 忠 雄
員外教授 石 田 憲 次

國文學專攻

國語及国文学研究

演講 八八

教授 沢湯久孝

哲學及哲學史研究

演講 八八

教授 阪田正一

乙類(撰択科目)

歴史学研究

国史

講 二

講師 魚澄惣五郎

東洋史

講 二

教授 石浜純太郎

大陸文学研究

支那文学研究

講 四

員外教授 渡辺格

英語学研究

英語学研究

講 四

教授 高橋盛孝

博士課程 経済学研究科

金融經濟・經濟史專攻

第一類(必修科目)

金融理論特殊研究

演講 八四

教授 森川太郎

証券經濟論

演講 八四

教授 今西庄次郎

信託經濟論

演講 八四

教授 高橋菊松

景氣變動論

演講 八四

教授 中川庸太郎

經濟學史

演講 八四

教授 三谷友吉

西洋經濟史

演講 八四

教授 矢口孝次郎

日本經濟史

演講 八四

教授 鐔方貞亮

第二類(撰択科目)

理論經濟學特殊研究(一)

講 四

講師 坂田保馬

理論經濟學 (二)

經濟政策

講 四

講師 堀口吉彦

財政學

講 四

講師 中川与之助

貨幣論

講 四

講師 正井敬次

日本經濟史

講 四

講師 堀江保藏

ドイツ經濟史

講 四

講師 宮下孝吉

フランス經濟史

講 四

講師 宮本又次

修士課程

經濟學專攻

第一類(必修科目)

經濟理論研究

演講 六四

教授 三谷友吉

金融經濟論

演講 六四

教授 森川太郎

証券經濟論

演講 六四

教授 今西庄次郎

信託經濟論

演講 六四

教授 板橋菊松

景氣變動論

演講 六四

教授 中川庸太郎

一般經濟史

演講 六四

教授 矢口孝次郎

日本經濟史

演講 六四

教授 鐔方貞亮

會計學

演講 六四

教授 久保田普二郎

財政學

演講 六四

講師 中川与之助

第二類(撰択科目)

經濟學史研究

講 四

講師 堀井敬次

國際經濟論

講 四

講師 宮下孝吉

ドイツ經濟史

講 四

講師 丹波庸太郎

企業財務論

講 四

講師 陶山誠太郎

監査論

講 四

講師 陶山誠太郎

以上が学科学目であるが、この強力な教授スタッフに、更に教授の不足が各大学に對し、審議會から注意されているのは、如何に大学院の課程が新学制の最高課程として重視されているかを判る。

二十八年度本豫算決る

総額二億六千七百八十萬圓

定例評議員会に於いて総額二億六千七百八十三萬五千円に及ぶ昭和二十八年度学校法人関西大学会計歳入出予算を可決した。これは前年度に比し五千三百六十四萬五千円増加となつて居る。

二十八年度の予算の特色は、經常歳入を以て經常支出をまかなう所謂健全財政であり、建築等の支出はこれを借入金に依つて居る点、及び教職員の待遇改善と教員研究費並びに教授陣拡充強化の為の経費増額に重点を向けた点が挙げられる。人件費と物件費の支出比率は人件費七十五%物件費二十五%である。物件費はその大部分が千里山学舎増築第三次計画の遂行の爲のものであり、昨年度に引き続き、千里山本館への増築に向けられている。人件費は教授陣増員(総教三十二名)及び給与規定改正に伴う待遇改善の爲相当額の増が見込まれている。尙圖書費は前年度に比し二五〇万円増の七〇〇万円が組まれて居りその他學術研究室実験費六〇〇万円が組入れられて居る。

定例評議員会開催

三月二十七日定例評議員会は天六学舎

に於いて開催され、昭和二十七年歳入出補正予算、昭和二十八年度歳入出予算を附議、夫々原案通り承認可決した。

二部、一高移轉に七千万円 二十七年歳補正豫算

三月二十七日開催された定例評議員会に提出された昭和二十七年歳入出補正予算に計上された主なものは学部第二部の天六学舎移轉に伴う学舎増築費としての四千万円、第一高等学校の千里山外苑移轉の爲の校舎建築費三千万円であり、その他学生寮建設費の二五〇万円、教職員手当九〇〇万円である。

各種委員会設置

大学機構に拡張に伴い、大学行政の諮問機關として各種委員会を設置することになり、既に夫々の人選を理事会に於いて決定された。委員会の名称及び事務分担は次の通りである。

- イ、建設委員会(建築、施設の拡充整備)
- ロ、学事委員会(学事充実に關する事項)
- ハ、給与厚生委員会(給与の適正処理、退職金、停年制等の立案、教職員、

学生の厚生福利事項)

- ニ、就職斡旋委員会(学生の就職斡旋と実行)
- ホ、体職振興委員会(体育振興策、施設制度)

- ヘ、倶楽部設置委員会(校友クラブ設置、校友本支部との連絡改善、名簿の完成)

- ト、関大七十周年行事計画委員会(関大七十年史編纂事業を含む)

- チ、財務委員会(財務に關する事項)

尚建設委員長は関豊馬氏、副委員長には江里口春志氏、学事委員長には内藤正剛氏、副委員長には浪江源治氏が夫々決定したが、他の委員長も近く決定を見る予定である。

知的水準を維持せよ

學部卒業式舉行

昭和二十七年学部卒業式は三月十九日午前十時より千里山学舎に於いて来賓始め教授職員多数列席して舉行、文学部総代に紅一点を加えて各学部総代に夫々合格証書が授与せられた。

次いで岡野学長より卒業生に対し、卓越した識見を養ひ、常に知的水準を堅持せよと式辭を送つて激励した。更に文部大臣、大阪府知事及び教育後援会長の祝辭があり、卒業生代表九十九萬樹君の答辭、本学合唱団の螢の光に送られ勇躍人生航路に門出した。

尙各学部卒業生数並びに総代は次の通りである。

- 法学部 一部 五〇五名
二部 二〇三名
総代 戸田隆夫君
- 文学部 一部 六一名
二部 九四名
総代 菊田妙子君

- 経済学部 一部 四九八名
二部 二三名
総代 久坪 清君
- 商学部 一部 二一五名
二部 一〇三名
総代 竹田 栄君

又大学院卒業式は三月二十八日午前十時より大学院ホールに於て舉行され、各研究科二十三名に修士記が授与された。尙各科の卒業生及総代は次の通り。

- 法学研究科 一三名
総代 中谷 清君
- 文学研究科 四名
総代 片元 静也君
- 経済学研究科 六名
総代 津川 正幸君

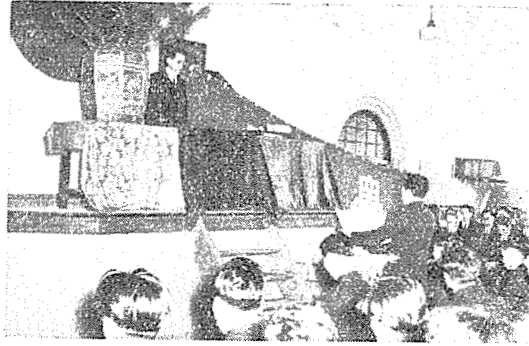
又答辭は代表として沢田嘉貞君が朗讀した。

一中也卒業式

関西大学第一中学校も三月十七日卒業式を舉行、佐藤哲一君他二二七名に卒業証書が授与された。

短大は十八日

短期大学部卒業式は三月十八日大六学舎講堂に於いて卒業生総代前田昌夫君他三二四名に証書が授与された。次いで学部長、学長、文部大臣及び来賓より祝辞あり、大久保茂平君が答辞を朗読した。更に学友会功勞者に賞品賞状の授与が



(短大卒業式)

あり後卒業生代表第一部西松史郎君、第二部坂野仁一君より夫々記念品の贈呈があり参列者一同螢の光を齊唱して式を閉じた。

博士課程設置認可

昨年末より懸案の大学院博士課程は大

学設置審議会の厳重な審査に合格、今春四月より開設の運びとなつた。尙同課程の詳細は別項の通りである。

人事異動

昭和廿八年四月一日附

経済学部助手 東井 正美
荒井 政治

〃 〃
本大学専任講師に任ずる(各通)
短期大学部教授 河村 宣介

本大学商学部勤務を命じ短期大学部兼務を命ずる

山崎 紀男
本大学教授に任じ商学部勤務を命ずる

専任講師 鯉 江城 夫
本大学短期大学部助教授に任ずる

専任講師 宇 田 米 夫
本大学短期大学部教授に任ずる

昭和廿八年三月五日附
教授 矢口 孝次郎
関西工業専門学校校長事務取扱を命ずる

昭和二十八年三月十二日附
教授 安 藤 俊 雄
願に依り職を解く

昭和二十八年四月一日附
原 弘 二 郎
島 田 退 蔵

本大学教授に任じ文学部勤務を命ずる
柏 尾 昌 哉

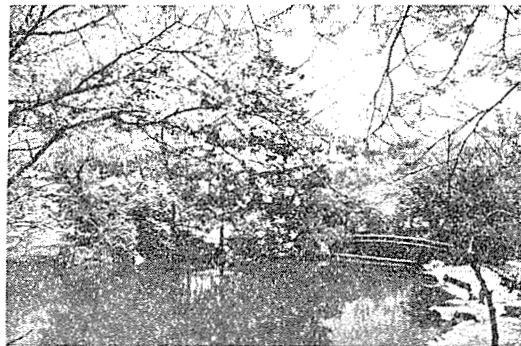
市 原 亮 平
本大学専任講師に任ずる(各通)
昭和二十八年四月一日附
有 坂 隆 道
樋 口 節 夫
田 中 敬 次 郎
吉 田 誠 弘
伊 藤 德 治
鎌 倉 勝 夫
山 野 俊 夫
中 村 良 之 助
神 津 東 雄
猪 谷 文 臣
正 木 正 正
星 野 信 夫

学内雑報

大學機構大改革か

最近に於ける大學機構の膨脹と社会情勢の進展に応じて近く大規模な機構改革及びそれに伴う諸規定の改正が実施される模様で一部は既に成案を得て理事会及び各種委員会で審議されているが、人員

配置、事務管理等は相当複雑な問題が山積し、その為大學当局も慎重を期し広く各方面より参考意見を徴している。特に徹底した合理化と能率化に重点が置かれその成行が注目されている。



(千里山外苑)

千里山外苑開放

本学千里山外苑は大坂近郊に於ける桜の名所の一に挙げられ、このほど四月一日より二十日の間一般に開放したが、連日多数の入園者があり、特に土・日曜日にはアトラクションが行われ二千名を超える盛況で、桜を賞する街の風流人で溢れた。

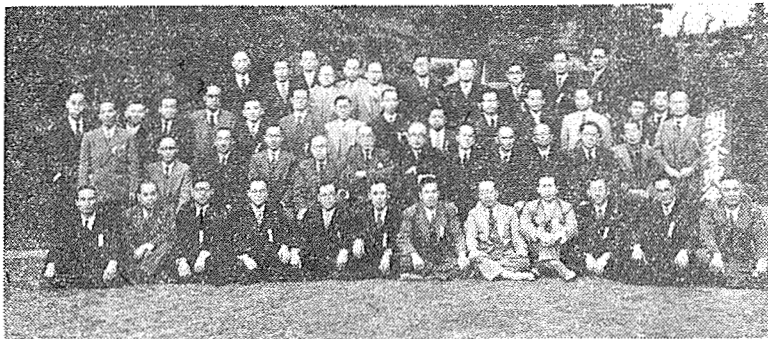
友校

恩師の温容も懐しく

昭八会二十周年記念
謝恩祝賀会開催

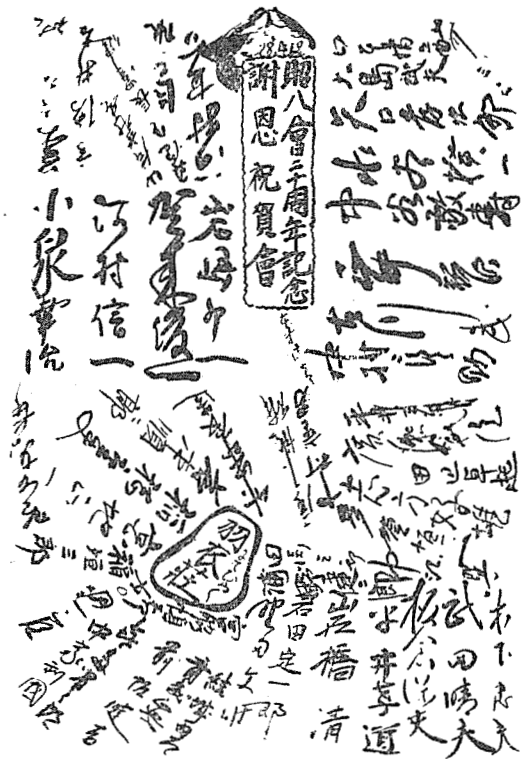
待望久しい昭八会二十周年記念行事の第一号であつた謝恩祝賀会も過去一年に亘つて組織的且つ計画的に進めて来た甲斐あつて盛大に賑々しく四月十二日午後二時より南海沿線にてその豪壯と清酒を誇る羽衣荘に於て開催することが出来た羽衣駅に差向けたプリムス新車からは次ぎ／＼に恩師の温顔が春の芽を吹き初めた芝生に降り立たれた。之を迎える者すべてが二十年振りの喜び押え難く、差し伸べられた御手に纏るが如くに招じ込み先づ豪壯な温泉に御案内して閉会までのひと時を寛いで頂いた。三時を過ぎた頃おい、恩師を初め学友が揃つたので、花曇りの空も午後にはカラリと晴れ渡り春光麗かな芝生の上に二十年振りの顔を集めて記念撮影するのも喜びの一瞬であつた。抽籤によつて座席が決められた五十数名がずらりと着座すると、当日の司会者である半井君より恩師諸先生の御来駕を謝するとともに昭八会諸兄の今日迄の御協力を感謝し更に二十周年記念行事を開くに至つた動機と経過の概略について報告する趣があつた。次で紹介されて大島君昭八会を代表して御挨拶を申し上げた。又恩師を代表して岩崎前学長より御鄭重

なる謝辞があり一同恐縮しながらも心から嬉しさを感じた。茲で記念品と恩師名



恩師を囲んで

簿と共に昭八会校友名簿を贈呈した。繰出した二十名余の美妓酒間をとりもつて



(昭八会の寄せ書)

宴は正に最高調二十年振りの喜びが爆発する頃、諸先生には次ぎ／＼に立たれ吾々の在学当時の思出やまた越し方二十年の世の移り変りを交じえての御近況等をお聞かせ下され一入懐しさを感じ吾々も亦交々代つて二十年の大半は戦塵の間に明け暮れた人生縮図を申し上げた。功なるも亦ならざるもそれは別として大変喜んで頂いた。よくぞ今日まで生き延びて今日この喜びに逢い得たるものかなと全く万金に替え難い歓喜感激であつた。諸先生方に於かれても諸君との再会は勿論であるが曾ての同僚であつた先生方と二十年振りに会ふ機会を作つてくれたことは嬉しい極みだ、願くば昭八会のこの催を範とせられ諸君に続く後輩年度の方々が毎年統けて頂くならば誠に有難いことだと強い御希望があつた。吾々もこの行事は後輩諸君によつて是非継続して頂きたいと念願して居る。宴半にして大拍手裡に各地方の祝宴を披露したが遠く鳥取市から奥沢君が出席してくれたことは皆に感激を与えた、諸先生を中心に二十年の積る話に花を咲せるあり、懐旧談はそれからそれと果しもなく続く、二十年間に仕込んだ多芸を披露するあり実に愉快な数刻は一瞬の如くに過ぎ去り、中村先生の昔を偲ぶタクトで学生歌を高唱し更に学歌を齊唱してから、恩師の御健康を祈つて万歳を三唱、終りに小泉先生

の御発声で昭八会に万歳を頂きこれによつて会を閉じ、諸先生を羽衣駅にお送りしてから吾々も尽きぬ名残を惜みつゝ再び逢ふ日を楽しみに握手も固く午後七時半散会した。

祝電を寄せた人々
九州 阿部 正賢、豊岡 浅野 三郎
東京 荒川虎一郎、京都 長谷川誠治
当日の出席者左の通り。

恩師（敬称略）
岩崎 卯一、河村 信一、河村 宣介
賀乗 俊一、小泉 幸治、中谷 敬寿
中村良之助、吉川 武、堀 正人
正井 敬次、水谷 接一、森下 政一
矢口孝次郎

昭八会側
中家 利国、田淵 三郎、奥沢 澄
宮地 正一、大島 武夫、吉田 一郎
中村 重男、尾下 瀧雄、野田 文雄
浦野健三郎、前坂 健吉、武田 晴夫
宮脇慎三郎、中江 巽、大川 三三
田辺 卓起、山本清之助、高橋 新吉
賀本 敏英、長沢 健一、木下 忠夫
美吉克之祐、広瀬 義臣、斎藤 正興
板倉 保夫、多賀 恒一、平井 孝道
岩田定一郎、稲穂 重夫、東野清太郎
竹歳 辰造、山尾 義春、岩橋 清
藤本順二郎、志方 好雄、片岡 一雄
喜多省三郎、結城 丙太、山下 秀義
楠本 三郎、村井 富男、平井 三朗

稲垣 三郎 (平井三朗氏報)
千里山昭八会開催

三月二十四日（火）午後五時半より大阪駅日本食堂特別室に於て第十六回例会開催、幹事より二十周年記念行事について前回再確認を得た諸事項の遂行状態を報告し、更に全員に一層の協力と熱意を要望した、最近母校に赴任した中江巽君を委員に推薦し今後の活躍をお願いすることになった、議事終了後一同打寛いで四月十二日の謝恩祝賀会の様相について大いに談笑花を咲かせ時の過ぎるを忘れ遂に時間だ／＼とせき立てられ名残り惜しくも九時半四月の盛會を期して散会。

当日の出席者左の通り。
浦賀健三郎、斎藤正興、大島武夫、尾下瀧雄、中江巽、中家利国、中村重男、野田文雄、吉田一郎、木下忠夫、宮脇慎三郎、大川三三、田辺卓起、西村善雄、高尾省三、長沢健一、美吉克之祐、宮地正一、高橋新吉、賀本敏英、広瀬義臣、平井三朗（順不同、敬称略）
春宵の嵐山に遊ぶ
京都支部定例総会
母校の校友会員名簿の第一次整備を機に関西大学校友会京都支部第七回定例総会を機に先づ三月二十八日京都嵯峨嵐山の京都市職員共済組合嵐峡ハウスに大挙三十四名が参加して行われた。校友相

互の懇親という目的ではあつたが、戦前より既に伝統を持つ京都支部を再確認し更に関西大学校友会会則に準拠して支部の会則を再検討するなど、新しい出発に備えて、協議した。特にその発足の準備については準備委員を設けず、現在役員の手交に委ね、遅くとも本秋の総会までに成案を得ることの動議を満場一致で可決した。次いで自己紹介の後宴に入り、学歌を高唱し、春雨煙の嵐峡に名残りを惜みつゝ散会した。（荒賀勝平氏報）
当日の参集者次の通り。

荒賀勝平、足立浩一、犬養久雄、石田稔、内田敬三、右城孝、岡田浅次郎、岡田実之、大槻正男、川上太一、木下忠夫、木村慎、北野重治、小西健一郎、佐々木弘、関口宗三郎、徳田実成、中沢孝、橋本文安、藤原秀夫、福田耕三、堀景光、真野金正、松原藤由、三上一雄、山本左一、三木英雄、山口多賀蔵、湯浅清一、吉川鹿之助、中沢孝、岡山茂、竹本吉三、牧山儀平（イロハ順、敬称略）

校友名簿発刊について

校友各位に急告
待望の校友名簿昭和二十八年用が態々出来上りました。就きましては校友相互の消息を知る意味に於いて、左記御高覧の上、是非売切れぬ間に至急御申込下さる様お願い申し上げます。
昭和二十八年四月
大阪市大淀区長柄中通二の一二
関西大学（校友課取扱）
記

型B列五号 頁数四百九十頁 価格参百円
払込方法 振替口座大阪一二八七五番を御利用下さい
校友課へ御来駕の上、現金にて御払込下さつても結構です

訂正

第二五七号（三月号）第九頁第三段の見出しを次のように訂正致します
誤 いでたの人のしるべにて
正 いでたつの人のしるべにて

大學と櫻

本学千里山学舎附近、殊に大学外苑が大阪近郊での櫻の名所であることは御存知の通りだが、さてこれを写真に撮るとなると仲々むづかしい。毎年櫻の写真には泣かされる。それまでした
くてもと云われるかも知れないけど、やはり、今年もこんなに立派に咲きましたと自慢したいのは人情の常、あれやこれやの中、一寸変つたアングルで経済学舎を外苑からのぞいた一枚。
(佐々木賢賢館提供)

考へ物新題

(其三)

一 鶏 学 人

碁石並べ

先づ初めに前回の問題を解いて置きます。遊覽コースの設定と云ふのが問題でしたが、これを解く鍵は二回通る区間を決定することに在ります。第一図を見ますと回遊すべき停留所が二十二個所です。その中に三方路の停留所が十二個所あります。二方路や四方路は入口と出口が同数ありますから問題はありますが、三方路は入口が二つ出口が一つですからどれか路を二回通らなければ即ち実質上四方路にしなければ次へ進むことが出来ません。ですから出発点と最終点は三方路でも差支へありませんが途中に三方路の停留所があることは許されません。烏丸車庫は三方路ですが最終点に指定されていますから厄介ものが一つ減ります。出発点は任意に選ぶことが出来ますからどこか適当な三方路の停留所を選べばもう一つ減ります。従つて四方路に変更を要する停留所は十個所になります。処が三方路の停留所を互に二つ結びますと両方が一度に四方路になりますから十個所の三方路を四方路に直すには最小限五個所の

区間を二回通ることが必要です。若し三方路の停留所の間に四方路の停留所があればそれを通して結ぶことになりすから区間の数が増えます。第一図を見ますと幸ひ三方路は何れも隣接していませんから今の計算で五個所の区間をダブらせれば解決出来る筈です。具体的に申しますと出町と百万遍、熊野と祇園、千本北大路と千本今出川、四町と西大路四条の四区間は二回通ることが絶対必要で、後の一個所は内浜と烏丸七条、烏丸七条と七条大宮の何れか一つを選べばよいことになります。七条大宮と烏丸七条の区間の方が僅かながら短いのでそれを探りますと全コース四十五キロとなり出発点は内浜に決ります。出発点と最終点が決まり、二回通る区間が決まつたのですから後はこの条件に合ふように道順を決めるだけで幼稚園の隅にも出来ません。勿も道順は色々あることが出来ませんがこの条件に合つて居れば何れも正解です。参考一二の例を第二図に示して置きます。一體幾通りの違つた道順がとれるでしょう。これはこれで一つの立派な考へ物で

すから暇のある方は計算してみてもいい。倍て今月は少し方面を変えて坊ちゃんや嬢ちゃんにも出来る碁石並べを考へて頂くことにしましょう。先づ碁盤と碁石を用意して、第三図の原形に示したように白黒交互に二十個の碁石を一行に並べて下さい。出来ましたらどこから探つても結構ですから毎回隣接している二個の石をその儘の順序で左右又は中間の空所へ移動せしめて黒石と白石とを左右へはつきり分けて下さい。移動の回数の少い程よいことは申すまでもありませんが、不思議に六個の石は三回、八個の石は四回と云ふ風に碁石の数の半分の回数で出来ます。今の場合ですと碁石が二十個ですから十回で出来る筈です。念の爲めに、碁石の動かし方の説明を兼ねて、やつて見ましょう。先づ第一回は右から二、三の石を左端へ移します。次で左から五、六の石を右に移し空処を埋めます。以下第三図に示した順序に従つて移動しますと十回で白石は右、黒石は左に奇麗に分れます。第四図は手順は違いますが矢張り十回で出来ていきますからこれも正解です。処でこの両図を御覧になりますと初めから終りまで動かない石のあることやその外色々共通点があることが判かることと思ひます。これが今回の考へ物を解く重要な鍵になりますから特に甲上げて置きます。

それではこの例にならつて六個、八個十個と順次碁石の数を増やしてやつてみて下さい。二十個位までを征服すれば移動方法に一定の規則があることに気がつきます。一見雑然としていて何のつかみどころもないように見えていますが、その根底に美しい数的關係が存在することを発見して思はず感嘆の声を發せられることでしょう。釈尊が菩提樹の下で正覺を得た歡喜ニュートンが万有引力の法則の端緒を發見した感激はちと大袈裟ですがその何%かに相當する感激が味へるところに碁石並べの醍醐味があります。冗談はさておきそれでは愈々問題の説明をいたします。

問題、白黒交互に十八個の碁石を一行に並べ、毎回隣接する三個の石をそに移動し、九回の移動で黒白を完全に左右に分ける手順如何

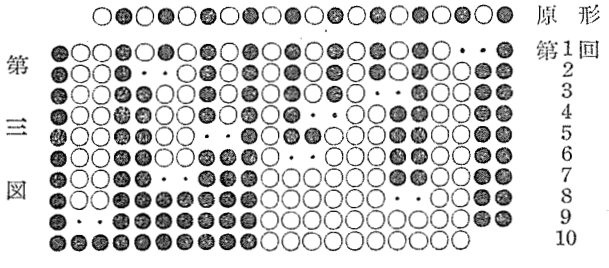
のままの順序で左右又は中間の空処に移動し、九回の移動で黒白を完全に左右に分ける手順如何

二個づゝ動かしていたのを三個づゝ動かすことにしただけですから大した難問ではありません。老幼を問はずどなたにも出来ませんから夕食後などに一家揃つて考へてみて下さい。御出来になつた方は第三図に示した要領で解答を作成し封筒に厳封して學報編輯部に御提出下さい。折角原稿料プラス・アルファが賞金として用意してありますから御遠慮なく応募して頂くよう御願いたします。

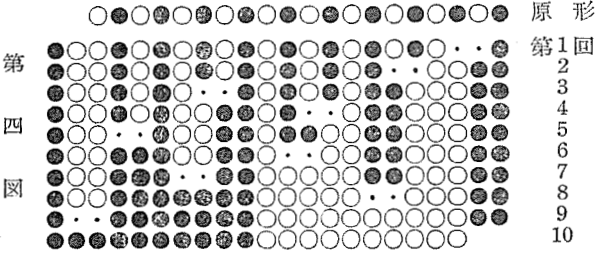
尙末筆になりましたが前回の問題に対

し某教授始め多数の御解答を頂きましたことを厚く御礼申上ます。ところが第一回の問題は御氣にめまなかつたためか回答が少く未だに正解者がありません。公倍数の応用問題でどなたにも出来る算術ですから学報読者の名譽に懸けて之亦奮つて御回答下さらんことを御願いたします。

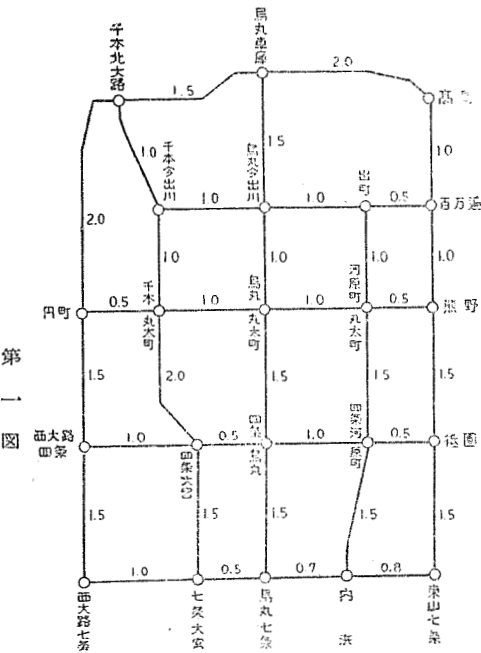
第一回の問題、三、五、七、十一、十三、十七で割つて夫々一、二、三、四、五、六が残る最小数を求む(計算式を要す)(短大教授)



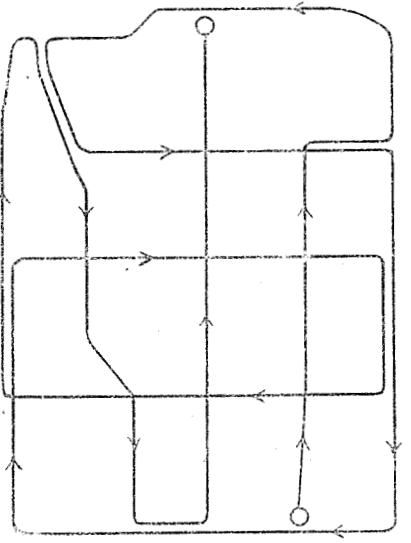
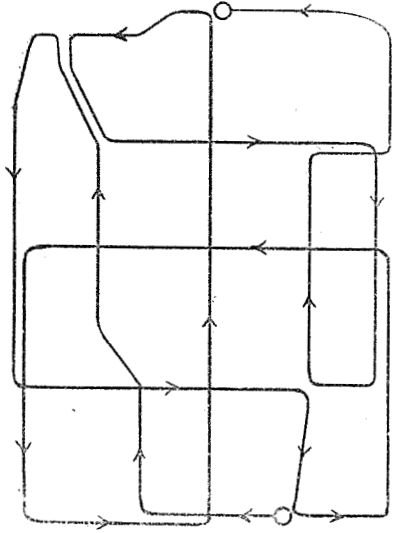
形回
原第 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



形回
原第 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



○前回の正解者
小谷久子氏(総務局勤務)に御褒美が出て居ります。お受取り下さい。



學生

春と共に漸く活潑化

体育各部

・体育各部及び文化学研各部は卒業生を送り出し、新たに有望な多数の人員を迎へしよとてあるが、各部共春のシーズンを近く控へ着々とトレーニングに研究に黙々と努力を続けてある。

今休暇中の各部の動きを覗いて見やう。

野球部 関西六大学春季リーグ戦を旬日にひかえた当部は連日グラウンドで火の出るやうな熱球を飛ばして練習に余念がない。大津、西村、桐田、などが大飛球を外野に飛ばせ、病気で静養してゐた網も愈々バツテングの練習に入つて静養と思へない、シユワーな飛球を外野に飛ばしてゐる。リーグ戦後半頃には一昨年あたりの投打にわたつての活躍がみものである。今三月中のオープン戦の戦績は次の通りである。

三月八日西下中の早大を迎へての試合は前半三点をリードして優勢の裡に試合を進めたが六回大西は制球に苦しみ二者を歩かせ、吉村が救援したが整はない為無死満塁としたが次打者、荒井の二壘後方にあがつた球を、高木、小林、両者が

追ひ衝突、転倒し、その間に二点を奪取され、又七回二死後、一点を加えられたいとなつたが、高木、小田両者の負傷欠場による打線の切れは、早大石井後半の復調と合して加点することか出来ず、三対三の儘延長戦に入つたが十回遊撃、西村の不覚、エラーであつけない幕切れとなつたが惜しい試合であつた。

戦績は
本学 3-4 早大

その後三月二十一日以降四国連任を試み、各地で次の如き成績を挙げた。

- 三月二十一日 本学 6-2 四国鉄道 高松
- 三月二十一日 本学 5-14 高松高商
- 三月二十二日 本学 2-5 倉敷レー 西条
- 三月二十二日 本学 2-1 〃 〃
- 三月二十三日 本学 4-5 西条北校
- アイススケート部** 昨年暮漸く屋内スケートリンクが関西でも開場され、ウキントースポーツを楽しむ機会に恵まれたい関西のファンをよるこばせたが、長い

戦中戦後のプランクは早急に埋めることが出来ず、関西スケート界は関東に比較して数段見劣りすることは争へない事実であつた。当部もその例外ではあり得ず戦績は香ばしいものではなかつたが、本年度のシーズンオフ中の基礎練習の如何によつては面目を一新した活躍を求たるべきシーズン開始と共に現はすことと思はれるが、シーズン最後を飾つた、関学定期戦続いて行はれた関西三大学リーグ戦の成績は

三月十四日 本学 1-1 関学 となり
此の定期戦で本学 DF 宮浦はフェンスに激突負傷したが、最大のポイントゲッターである宮浦の負傷は続いて行はれる三大学リーグ戦の前途に一沫の暗影を投じたが、事実リーグ戦にはチーム全員の健闘にも拘はらず最下位を余儀なくされ

三月十七日 本学 4 (2-2) 7 同大
0-1-2
0-3
三月十八日 本学 1 (0-1-1) 2 関学
0-1-1
0-0

同大、関学両者に敗れたが、ポイントを取る能力がないと云はれた本学が徐々に得点能力を増してゐるので来たるシーズンにはその活躍が楽しめる。

航空部 再發足以来わずか半年の当部は機械及び練習場に恵まれず、苦しい練習を続けてゐるが去る三月十四日より一週間、日本学生航空連盟の合宿に参加、

京都府下玉水木津川河原で前回より更に技倆の進歩を見せた。

参加者及び技倆程度は次の通りである
一、ウキンチ曳航班(ソアラ)及びプラセコに依る)

- 光玉周郎 高度四十米 課目一八〇度 旋回
- 辻 健一 〃 〃 〃
- 二、シヨックコード班(プラセコに依る)
- 松崎安隆 高度十米 課目左右三〇度 旋回
- 河島 啓 〃 〃 〃
- 波田昌之 高度十米 課目左右三〇度 旋回
- 東 恭 〃 〃 〃
- ヨット部** ヨット部はシーズンオフ中に所有艇を修理してゐたが完成したので三月十七日尻無川より西宮港本学艇庫に廻送することを決定、ヨット七隻を佐伯末吉君を総指揮者として無事廻航を終つた。当日各艇乗組員は次の通りであつた
- A 三〇〇一 河合義雄、米沢祥介、後藤晃一
- A 三〇〇二 大道蔵一、跡部達雄、安井薫
- A 三〇〇三 西川省一、水谷混、吉田勇
- A 三〇〇四 龍昭、岡田達郎、宮本弘
- A 三〇〇五 細田義治、高辻正雄、真木康太郎
- S 三〇〇四 佐伯末吉、長尾宏、奥井昭男
- S 三〇〇五 金堂俊雄、奥井彰、西川收二

バドミントン部 第一回大阪学生バドミントン選手権は男子単決勝に多田、寺口の同志討となり、多田が優勝、大阪学生バドミントン男子軍の選手権を得た。成績次の通り

本学 多田 2 (5-11) 0 寺口 本学

ホッケー部 昨年度優秀な成績を挙げた当部は昨年度最終の行事としての全大阪対広島戦のメンバーに本学OB 2名他は本学現役で全員を占め対戦することとなり、三月二十一日広島に遠征、

全大阪 6 (4-10) 1 全広島

の戦績で撃破し本学ホッケー部の健在を示した。

空手部 新入部員を加え全員四十五名



(空手部練習風景)

の部員数を誇る当部は崎尾師範の指導のもとに、初段七名、二級二名、三級十四名を有してあるが今年度入学者中には関大一高からの岩佐、伊藤及び沖繩出身の玉那覇等有望な新人と見られてゐる。糸東流の当部が今後の活躍を何のやうに吾々の前に展開して来るか、興味がある。

され、研究活動は系統的、段階的に最大の成果を得るやうに計畫、着実に実行されてゐる。今、過ぐる一年間をかえり見れば、年五回行はれた、関西学生討論会及び法律討論研究会には出場者の殆んどが入賞する好成績を得、尙ほ司法週間に行はれた法律討論会、全日本法律討論会では優秀賞問賞を徳田恒光が獲得したことは特筆せられなければならない。

員天六学舎收容とあつて増築のテンボもアレグロ。既定の設計に従つて基礎工事に着手。この完成の晩には最近の様な学生課前の雑踏も解消しようというもの、あと暫らくの御辛抱。

軟式野球部 シーズン開幕前のチーム化合宿練習を林主将のもとに遠く吉野強美吉野球場を選び、三月十六日より二十五日に至る間行つたが、四月に入つてからの各試合に此等の成果が何のやうに結果づけられるか、今後の活躍が期待される。

又昨年度に引続き法律意識未発達地域での法律事実実態調査は多大の成果を挙げ昨年度最終の事業であつた法学研究集に集録された。此の法学論集は去る二月十日堂々八十頁に關係者の研究労作が盛り込まれ内容に往來にない充実さが見られる。終りに附記しなければならぬことは昨年度当会所属会員中より司法試験合格者、法四村林隆一、法四北側勝、法四西本剛、法三池田慶の四君の名が挙げられなければならない。此のやうな偉大な成果を更に大いなものとする為めに会員の今後の努力が祈られる。

◆ 天六学舎大増築始まる。二部学生全

陸上競技部 昨年来漸々沈滞気味であつた当部は玉江、末園、指山、岡田等の全日本級を中心とし更に今春入部が決定した新人群を率いての活躍が有望され、傳統四大陸上王國再現のフアリストステツプとなることとが有望される。

編集後記

千里山法律學會 創立二十週年を迎えた本会は中谷教授の指導を得て愈々拡充

◆ 二千名に及ぶ卒業生を送り出し、又それとは入代つて多数の新入学生を迎へた。大学院博士課程の設置も認可され、関西大学も茲に愈々大発展の好機到来、特に学内外の一致協力が要請されるわけである。

◆ 天六学舎大増築始まる。二部学生全

◆ 天六学舎大増築始まる。二部学生全

◆ 天六学舎大増築始まる。二部学生全

昭和二十八年四月十日印刷
昭和二十八年四月十五日發行

關西大學學報 第二五八號

一年誌代表費三〇〇円(送料共)

大阪市長柄中通二丁目二番地

編集者 久 井 忠 雄

印刷者 西 井 茂 藏

大阪市長柄川崎町三七

印刷所 株式 印刷所

電話堀川 三三〇二番

電話堀川 三三〇二番

電話堀川 三三〇二番

電話堀川 三三〇二番

大阪市長柄中通二丁目
發行所 關西大學學報局
電話堀川(36)一七五六番
電話大阪(二六)七二二番

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和二十八年四月十五日発行(毎月一回十五日発行)

關西大學學報 第二五八號・四月號

最新のスタイルを誇る

三越の紳士服

舶来・国産の優秀服地をあつめて
三越独自の優秀な技術で御調製



大 高麗橋 阪

紳士フロアー・2階

洋服・帽子・ワイシャツ・ネクタイ・肌着
ハンカチーフ・靴下・靴・鞆・ゴルフ用品
その他紳士用品をすべて取揃えました

10時—5時半(金曜定休)
電話北浜(23)1353・1551 ●地下鉄淀屋橋より徒歩5分!



新聞・雑誌・放送広告

60余年の歴史と経験を持つ
当社をぜひ御利用願います

新聞・雑誌・放送・屋外広告その他
あらゆる広告の御相談に応じます

定期刊行物

広告年鑑

内容—新聞篇・雑誌篇
放送篇・廣告實務篇
廣告資料篇・廣告主
名鑑の各篇益々充實

広告論叢

廣告代理業

株式
会社

萬年社

大阪市東区高麗橋五丁目
電話(土佐堀)693-696
支店—東京・京都・神戸・名古屋

定價三十円